

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	モスピラン液剤
会社	日本曹達株式会社
住所	〒100-7010 東京都千代田区丸の内二丁目 7 番 2 号
担当部門	農業化学品事業部普及部
電話番号	03-4212-9655
FAX 番号	03-4212-9676
緊急連絡先情報	農業化学品事業部普及部
電話番号	03-4212-9655
SDS 作成日	2006 年 04 月 21 日
改訂日	2025 年 09 月 08 日 (07 版)
推奨用途	農薬
使用上の制限	推奨用途以外への使用は禁止する

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康に対する有害性	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1（腎臓、肝臓）

ラベル要素

絵表示（GHS
JP）



注意喚起語（GHS JP）

： 危険

危険有害性（GHS JP）

： 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（腎臓、肝臓）

注意書き（GHS JP）

安全対策

： 使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は手、顔をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

応急措置

： ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。

保管

： 施錠して保管すること。

廃棄：内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名	濃度 (%)	化学式 (上書き)	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジリル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン	2.0	C10H11ClN4	(5)-6415	8-(1)-2355	135410-20-7
ジエチレングリコール	97	C4H10O3	(2)-415	既存化学物質	111-46-6
スルホコハク酸ジ-2-エチルヘキシルナトリウム	0.7	C20H37NaO7S	(2)-1620, (2)-1623	2-(4)-384, 2-(4)-692	577-11-7
エチレングリコール	0.01	C2H6O2	(2)-230	なし(公表化学物質扱い)	107-21-1

《その他》

CAS No. 企業秘密のため記載せず。

含有量 残分

化審法 適用外又は既存化学物質

安衛法 適用外又は既存化学物質

《(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジリル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン の別名》

アセタミプリド

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般

： 気分が悪いときは医師に連絡すること。

吸入した場合

： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

： 汚染された服や靴をすぐに脱がせる。

多量の水と石鹸で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。

眼に入った場合

： 水で数分間注意深く洗うこと。

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。

飲み込んだ場合

： 口をすすぐこと。

無理に吐かせないこと。

医師の診察／手当てを受けること。

医師に対する特別な注意事項

その他の医学的アドバイスまたは治療： 対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

- | | |
|-------------|---|
| 適切な消火剤 | ： 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素 |
| 使ってはならない消火剤 | ： 情報なし。 |
| 火災危険性 | ： 可燃性液体。
燃焼によって有毒ガスを生成する。 |
| 消火方法 | ： 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。
周辺火災の場合、速やかに容器を安全な場所に移す。
容器を安全な場所から水噴霧で冷却する。
風上から近づく。 |
| 消火を行う者の保護 | ： 燃焼により毒性・有害性ガスを発生するので、自給式呼吸器を含む消火保護具を着用のこと。 |
-

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- | | |
|-------|---|
| 一般的措置 | ： 安全なエリアに人員を避難させる。
個人用保護具については、8 項を参照すること。
十分な換気を確保する。
風上から近づく。
眼、皮膚、衣類につけないこと。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 |
|-------|---|

環境に対する注意事項

- | | |
|------------|--------------------|
| 環境に対する注意事項 | ： 排水溝または水路への侵入を防ぐ。 |
|------------|--------------------|

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- | | |
|----------|--|
| 封じ込め方法 | ： 漏出物を回収すること。
流出した物質は吸着剤で回収し、下水溝や水路への侵入を防止する。 |
| 二次災害の防止策 | ： 火花を発生させない工具を使用すること。
炎や火花の禁止。発火源をすべて断つ。 |
-

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- | | |
|----------|---|
| 技術的対策 | ： 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 |
| 安全取扱注意事項 | ： 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
取扱い後はよく手、顔 を洗うこと。
眼、皮膚、衣類につけないこと。
蒸気、ミスト、スプレーを吸入しないこと。 |
-

管理番号：N0-6146700

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。

接触回避：より詳細な情報については、第 10 項の「安定性と反応性」を参照。

保管

安全な保管条件：乾燥した場所で密閉容器に保管すること。
施錠して保管すること。
涼しいところに置き、日光から遮断すること。
容器を密閉しておくこと。
酸化剤から離して保管すること。

安全な容器包装材料：情報なし。

8. ばく露防止及び保護措置

エチレングリコール (107-21-1)	
日本 - ばく露限界値 (厚生労働大臣が定める濃度の基準)	
現地名	エチレングリコール # Ethylene glycol
8 時間濃度基準値	10 ppm
短時間濃度基準値	50 ppm
規則参照	労働安全衛生規則第 577 条の 2 第 2 項 (令和 6 年 4 月 1 日施行)

設備対策：取扱い場所の近くに、シャワー・洗眼器を設置する、十分な換気を行う。

保護具

呼吸用保護具：認可を受けた有機ガス用マスク、[換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具：PVC 製保護手袋、ゴム製の保護手袋

眼の保護具：ゴーグル

皮膚及び身体の保護具：長袖を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態：液体

色：青色

臭い：データなし

pH：データなし

融点：データなし

凝固点：データなし

沸点：データなし

引火点：151 °C

自然発火点：データなし

分解温度：データなし

可燃性：データなし

蒸気圧	: データなし
相対密度	: 1.12
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 情報なし。
化学的安定性	: 通常の使用条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 情報なし。
避けるべき条件	: 直射日光。高温。熱。
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 燃焼によって有毒ガスを生成する。一酸化炭素。窒素酸化物(NO _x)。塩化水素。芳香族炭化水素。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	: 区分に該当しない
急性毒性（経皮）	: 区分に該当しない
急性毒性（吸入）	: 区分に該当しない（分類対象外）（気体） 分類できない（蒸気） 分類できない（粉じん、ミスト）

モスピラン液剤	
LD50 経口 ラット	> 5000 mg/kg (♂、♀)
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg (♂、♀)
(E)-N1-[(6-クロロ-3-ヒドロキシル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)	
LD50 経口 ラット	217 mg/kg (♂)、146mg/kg (♀)
LD50 経口	198 mg/kg (♀)、184mg/kg (♀) (マウス)
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg (♂♀)
LC50 吸入 - ラット	> 0.29 mg/l/4h
LC50 吸入 - ラット (粉じん / ミスト)	> 1.15 mg/l/4h (♂♀)
ジェチレングリコール (111-46-6)	
LD50 経口	15600 mg/kg
LD50 経皮	13300 mg/kg
スルホコハク酸ジ-2-エチルヘキシルナトリウム (577-11-7)	
LD50 経口	3080 mg/kg

スルホコハク酸ジ-2-エチルヘキシルナトリウム (577-11-7)

LD50 経皮	10000 mg/kg
---------	-------------

エチレングリコール (107-21-1)

LD50 経口 ラット	4000 - 10200 mg/kg
LD50 経口	6140 mg/kg
LD50 経皮 ラット	10600 mg/kg
LD50 経皮	9530 mg/kg
LC50 吸入 - ラット	> 2.5 mg/l (Exposure time: 6 h Source: ECHA_API)
LC50 吸入 - ラット (粉じん / ミスト)	2.7 mg/l/4h

皮膚腐食性/皮膚刺激性：ウサギ皮膚刺激性なし

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ヒドロキシ)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)

皮膚腐食性/刺激性	刺激性なし (ウサギ)
-----------	-------------

ジエチレングリコール (111-46-6)

皮膚腐食性/刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (Draize test) の結果は軽度の刺激性 (slightly irritating) であり (IUCLID (2000))、ヒトに 48 時間適用、あるいはモルモットに反復適用してもなお刺激性なしの結果が得られている (DFGOT vol. 10 (1998))。JIS の分類基準により区分外とした (国連 GHS では区分 3 に相当)。
-----------	---

スルホコハク酸ジ-2-エチルヘキシルナトリウム (577-11-7)

皮膚腐食性/刺激性	ウサギに 0.5 mL を閉塞適用した試験で、非損傷皮膚の 24 時間後のスコア値が 2.33 (紅斑)、2.5 (浮腫)、72 時間後のスコア値が 1.66 (紅斑)、1.6 (浮腫) で壊死および非可逆的な変化は見られなかったとの記述 (IUCLID (2000)) から、区分 2 とした。
-----------	--

エチレングリコール (107-21-1)

皮膚腐食性/刺激性	ヒト 103 人に対するパッチテストにおいて、本物質の原液 0.2 mL の適用により刺激性がみられた (SIDS (2009)) ことから、区分 2 とした。またウサギ、モルモットを用いた皮膚刺激性試験で軽度の皮膚刺激性がみられた (CICAD 45 (2002)、初期リスク評価書 (2007)、CEPA (2000)) との報告がある。ヒトの所見を追加し区分を変更した。
-----------	--

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：軽度の刺激性であるが区分外

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ヒドロキシ)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)

眼に対する重篤な損傷性/刺激性	刺激性なし (ウサギ)
-----------------	-------------

ジエチレングリコール (111-46-6)

眼に対する重篤な損傷性/刺激性	ウサギを用いた試験で、刺激性が認められていない (DFGOT vol. 10 (1998)、PATTY (5th, 2001)) ことから区分外とした。
-----------------	--

スルホコハク酸ジ-2-エチルヘキシルナトリウム (577-11-7)	
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	ウサギに 100 mg 適用した試験で、壊死および非可逆的な変化は見られず、刺激性 (irritating) を示したの記述 (IUCLID (2000))、ウサギに 250 μ g 適用した試験で、軽度の刺激性 (Mild irritation) の記述 (HPVIS (2009)) から、区分 2 とした。

エチレングリコール (107-21-1)	
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	ウサギに原液を適用した眼刺激性試験において、刺激性なしとの報告がある (SIDS (2009))。また、液体や蒸気への 1 回あるいは短時間の眼へのばく露は、恒久的な角膜損傷を伴わない軽微な結膜刺激をウサギに引き起こす (CICAD 45 (2002)、初期リスク評価書 (2007)、CEPA (2000)) との報告がある。ヒトの事故例として本物質 (濃度不明) に眼にばく露された結果、結膜のうっ血、浮腫、光反射の遅延、重度の角膜炎がみられたが 4 週間後には回復したとの報告がある (DFGOT vol. 4 (1992)) が濃度等については詳細不明である。以上の結果から区分 2B とした。

呼吸器感作性：分類できない

皮膚感作性：モルモットにおいて皮膚感作を起こさない。

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)	
皮膚感作性	感作性なし (モルモット)

ジエチレングリコール (111-46-6)	
呼吸器感作性	データなし。
皮膚感作性	モルモットの皮膚感作性試験 (Maximization test) (DFGOT vol. 10 (1998))、およびヒトのパッチテスト (IUCLID (2000)) における感作性なし (no evidence of sensitizing effects) の結果に基づき「区分外」とした。

スルホコハク酸ジ-2-エチルヘキシルナトリウム (577-11-7)	
呼吸器感作性	データなし。
皮膚感作性	データなし。

エチレングリコール (107-21-1)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	ヒトに対する報告が 2 件あり、本物質 5%又は 25%水溶液を 11 人に適用したところ、1 人 (レンズの切断作業で 25%水溶液を扱い腕、胸、腹部に皮膚炎を発症した 31 歳女性、ニッケルアレルギーあり) に激しいアレルギー反応を示したが、他の 10 名にアレルギー反応はみられなかった (DFGOT vol. 4 (1992))。また、本物質の 1%及び 5%水溶液を 10 人に適用したところ 1 人 (4 ヶ月間光学レンズの洗浄作業で 25%水溶液を扱い、発疹がみられた 17 歳男性) にアレルギー反応はみられなかったが、本物質 3%を含むエタノール溶液に対して軽度の刺激、紅斑、腫れがみられた。他の 9 人についてはアルコールに対する軽度の刺激以外の反応はみられなかった (DFGOT vol. 4 (1992))。なお、モルモットを用いたマキシマイゼーション試験において、感作性はみられなかったとの報告がある (SIDS (2009))。動物試験では陰性の結果があるものの、ヒトの事例でアレルギー反応の事例があることから、分類できないとした。

生殖細胞変異原性：分類できない

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)	
生殖細胞変異原性	Ames 試験：陰性、染色体異常試験：陽性、小核試験：陰性 (マウス)、UDS 試験：陰性、Rec-Assay：陰性

ジエチレングリコール (111-46-6)

生殖細胞変異原性	ハムスターを用いた in vivo 染色体異常試験において、腹腔内投与で染色体異常（ギャップ）の僅かな増加、経口投与では曖昧な結果であったと報告されている（DFGOT vol.10 (1998)）。その他には小核試験と優性致死試験の記述もあるが、動物種、投与方法、投与期間などの基本的な情報を欠き、試験データとして不十分で遺伝毒性の評価には使用できないとも記述されている（DFGOT vol.10 (1998)、IUCILID (2000)）ので、分類の根拠としても疑義があり分類できないとした。なお、in vitro の変異原性試験は概ね陰性結果が得られている（DFGOT vol.10 (1998)、NTP DB (Access on June, 2008)、IUCILID (2000)）。
----------	--

スルホコハク酸ジ-2-エチルヘキシルナトリウム (577-11-7)

生殖細胞変異原性	in vivo 試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro の試験では、エームス試験で陰性（USEPA/HPV (2001)）、CHO 細胞を用いた染色体異常試験で陽性および陰性（USEPA/HPV (2011)）の報告がある。
----------	--

エチレングリコール (107-21-1)

生殖細胞変異原性	ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivo では、ラットの優性致死試験、マウスの小核試験及び染色体異常試験でいずれも陰性（NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第 3 巻 (2004)、SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)、ATSDR (2010)、CEPA (2000)）である。In vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞のマウスリンフォーマ試験、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験でいずれも陰性（NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第 3 巻 (2004)、SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)、ATSDR (2010)、CEPA (2000)）である。
----------	---

発がん性：分類できない

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)

発がん性	陰性（ラット、マウス）
------	-------------

ジエチレングリコール (111-46-6)

発がん性	ラットに 2 年間の経口ばく露により、生存率の低下とともに膀胱腫瘍あるいは腎臓腫瘍の発生が報告されている（DFGOT vol.10 (1998)）。しかしながら、膀胱腫瘍については雄のみの試験でありデータも古い。腎臓腫瘍については同一著者がその後行ったイニシエーション/プロモーション試験の結果により、ジエチレングリコールには発がん性もプロモーション作用もないことが示された（DFGOT vol.10 (1998)）。その他の試験についても結論付けるのに十分なデータが見当たらず分類できないとした。
------	---

スルホコハク酸ジ-2-エチルヘキシルナトリウム (577-11-7)

発がん性	データなし。
------	--------

エチレングリコール (107-21-1)

発がん性	ACGHI で A4（ACGIH (7th, 2001)）に分類されているため、「分類できない」とした。
------	--

生殖毒性：生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
区分に該当しない**(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)**

生殖毒性	繁殖毒性：陰性（ラット）、催奇形性：陰性（ラット、ウサギ）
------	-------------------------------

ジエチレングリコール (111-46-6)**生殖毒性**

マウスを用い交配前からのばく露による 2 世代生殖試験において、同腹児数の減少に加え、脳ヘルニア、口蓋裂の頭蓋顔面奇形が観察された (DFGOT vol.10 (1998))。口蓋裂はハムスターの妊娠 8 日目の腹腔内投与でも報告されている (DFGOT vol.10 (1998))。これらの影響が現れた用量では同時に母動物の体重減少、ハムスターでは死亡が見られ (DFGOT vol.10 (1998))、即ち、親動物での一般毒性が発現する用量で明確な生殖毒性が記述されていることから区分 2 とした。

スルホコハク酸ジ-2-エチルヘキシルナトリウム (577-11-7)**生殖毒性**

妊娠ラットの器官形成期に混餌投与した試験で、母獣に体重増加抑制が見られたばく露量で、吸収胚の増加および仔の外表面奇形が有意に増加した (JECFA 723 (1991)) との記述から、区分 2 とした。また、ラットの混餌投与三世代試験 (0, 0.5, or 1.0% 混餌) で、当該物質の母乳への分泌で、仔の栄養障害が原因と考えられる体重増加抑制、生存率の減少が見られた (JECFA 723 (1991)) との報告から「追加区分：授乳に対するまたは授乳を介した影響」とした。

エチレングリコール (107-21-1)**生殖毒性**

ラットを用いた経口経路 (混餌) での三世代生殖毒性試験においては生殖発生毒性に対する影響は認められなかったとの報告 (ATSDR (2010)、(NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第 3 巻 (2004)、CICAD 45 (2002))、マウスを用いた経口経路 (飲水) での連続交配試験では、母動物毒性はないが極めて高用量 (1,640 mg/kg bw/day) で、胎児への影響 (出生児体重の減少、同腹児数及び生存児数のわずかな減少、発生数は不明であるが顔貌異常と、頭蓋骨、胸骨分節、肋骨、椎骨で骨格変化) がみられたとの報告がある (ATSDR (2010)、CICAD 45 (2002))。ラットあるいはマウスを用いた経口経路 (強制) での催奇形性試験において、母動物毒性のみられない高用量 (1,000 mg/kg bw/day 以上) において児動物への影響 (胎児体重の減少、骨化遅延、骨格奇形) がみられている (ATSDR (2010)、NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第 3 巻 (2004)、CICAD 45 (2002))。以上のように、母動物毒性のみられない用量において主に骨格奇形を含む児動物への影響がみられたが極めて高用量であること、旧分類の根拠である作用機序がヒトに該当しないとの明確な証拠が得られなかったことから、分類できないとした。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分に該当しない

ジエチレングリコール (111-46-6)**特定標的臓器毒性 (単回ばく露)**

急性毒性の症状は動物種間で類似しているとして症状が具体的に記述されている (DFGOT vol.10 (1998)、PATTY (5th, 2001)) が、ばく露量との関係について記載がなく分類できない。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

臓器の障害のおそれ (腎臓)

スルホコハク酸ジ-2-エチルヘキシルナトリウム (577-11-7)**特定標的臓器毒性 (単回ばく露)**

ラットの急性経口ばく露試験 (用量: 2820, 3560, 4480, 5040 mg/kg) で、3560 mg/kg 以上の投与群で死亡が見られ、死亡例のほとんどは、ばく露後 6-24 時間以内で見られた。毒性症状として平伏状態や嗜眠が認められ、死亡動物では消化管内に黄色の液体が観察されたが、生存動物の解剖では可視的な障害は見られなかったとの記述 (USEPA/HPV (2001)) がある。しかし上記の試験は、区分 2 のガイダンス値の上限を超えた高い用量で行なわれており、ガイダンス値内での投与量における影響が不明であることからデータ不足で「分類できない」とした。

エチレングリコール (107-21-1)

特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトにおいては、経口摂取後の毒性影響は主として以下の3段階に分けられる。すなわち、第一段階（摂取から0.5-12時間）：中枢神経系への影響（中毒、嗜眠、痙攣、昏睡）及び代謝障害（アシドーシス、高カリウム血症、低カルシウム血症）、第二段階（摂取から12-24時間）：心臓及び肺への影響（頻脈、高血圧、代償性過呼吸を伴う重度の代謝性アシドーシス、低酸素症、鬱血性心不全、成人呼吸窮迫症候群）、第三段階（摂取から24-72時間）：腎毒性（シュウ酸カルシウム沈着、血尿、急性尿細管壊死、腎不全）である（SIDS（2009）、CEPA（2000）、環境省リスク評価第3巻（2004））。さらに、摂取から6-14日、あるいはそれ以降において見られる影響として第四段階を置き、中枢神経系影響に加え、神経学的影響（顔面神経麻痺、不明瞭な発語、運動能力の喪失、視力障害を含む）が観察され、脳神経の損傷を示唆するとの報告もある（NITE 初期リスク評価書（2007）、ACGIH（7th, 2001）、DFGOT vol. 4（1992）、CEPA（2000））。なお、ヒトにおける経口摂取による致死量は、約0.4-1.3 g/kg bw（CEPA（2000））や1.6 g/kg bw（SIDS（2009）、NITE 初期リスク評価書（2007）、ACGIH（7th, 2001））の報告がある。吸入経路では、ボランティアによる55 ppmの吸入ばく露試験で吸入開始1.5分後から喉及び上気道の痛みがあり、79 ppm以上では、痛みが非常に激しく1分以上耐えられなかったとの報告がある（NITE 初期リスク評価書（2007）、ACGIH（7th, 2001））。ラット、マウスでは、投与量に相関した中枢神経抑制作用があり、多量の経口投与では、昏睡、麻痺、運動失調を示し死に至る。また、頻脈、頻呼吸、気管支肺炎、肺浮腫、うっ血性心不全、代謝性アシドーシス、腎臓障害を伴う多渴症、多尿症、尿中シュウ酸カルシウム結晶析出が報告されている。病理組織学的にはシュウ酸カルシウム結晶沈着による腎尿細管上皮の変性、間質性水腫、腎皮質の出血性壊死が認められている（NITE 初期リスク評価書（2007）、SIDS（2009）、CEPA（2000）、ACGIH（7th, 2001））。なお、これらの影響はガイダンス値の区分の範囲では認められていない。以上より、区分1（中枢神経系、血液系、腎臓）、区分3（気道刺激性、麻酔作用）とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	臓器の障害（中枢神経系、血液系、腎臓） 眠気又はめまいのおそれ 呼吸器への刺激のおそれ

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（腎臓、肝臓）

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)	慢性毒性試験：NOAEL（イヌ、飼料混入投与）：20 mg/kg bw/day（♂）、21 mg/kg bw/day（♀）（1年）、NOAEL（ラット、飼料混入投与）：7.1 mg/kg bw/day（♂）、8.8 mg/kg bw/day（♀）（2年）
-----------------	--

ジエチレングリコール (111-46-6)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットの反復経口ばく露による特徴的な所見として、尿酸の排泄増加とともに尿中に尿酸カルシウム結晶が形成され、腎障害（ネフローゼ）が見られたと報告されている（DFGOT vol.10（1998））。ばく露が長期に及ぶと膀胱結石も観察され、また、腎臓に比べ軽度ながら肝障害の記述も一部にある（PATY（5th, 2001））。しかし、これらの影響はいずれもガイダンス値範囲のカットオフ値（100 mg/kg/day）を超えたかなり高用量における所見である。一方、ヒトでは本物質のばく露に関して複数の疫学調査が実施され、それらの結果によれば、多数の死亡例、進行性の腎障害と最終的に腎不全、一部の報告では肝障害が報告されている（DFGOT vol.10（1998））。以上、ラットの反復ばく露の所見を考慮に入れ、ヒトの疫学調査の結果に基づき区分1（腎臓、肝臓）とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ（腎臓、中枢神経系）

スルホコハク酸ジ-2-エチルヘキシルナトリウム (577-11-7)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットの 90 日間混餌投与試験 (1%混餌 (換算値: 500 mg/kg/day)) で、死亡や異常行動はみられず、体重増加、摂餌量、血液学的検査、尿検査、病理学的検査においても、投与に関連した影響は見られなかったとの記述 (USEPA HPV (2001)) から、経口ばく露では区分外に相当するが、他の経路 (吸入、経皮) の毒性影響のデータがなく、データがなく分類できないとした。
エチレングリコール (107-21-1)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトでは、男性ボランティアに 69 mg/m ³ までの濃度を毎日 20-22 時間、1 ヶ月間吸入ばく露したが、全身影響はみられなかった (環境省リスク評価第 3 巻 (2004)、SIDS (2009)、ATSDR (2010))。また、カナダ及びフィンランドにおける職業ばく露による報告では、本物質ばく露により懸念された腎臓への影響はみられなかった (SIDS (2009))。この他、反復ばく露であることが明らかなヒトでの本物質についての知見はない。実験動物では、SIDS (2009) 及び ATSDR (2010) の記述より、腎臓が最も感受性の高い標的臓器であるとされており、SIDS (2009) で信頼性が最も高いと判断されたラットを用いた 16 週間、1 年間又は 2 年間混餌投与試験において、いずれも腎臓に毒性病変 (腎症、腎結石、尿結晶など) が雄に強く生じたが、その発現用量は区分 2 を遥かに超える用量 (腎毒性を指標とした LOAEL の最小値: 300 mg/kg/day (雄ラット 1 年間混餌投与試験)) であった (SIDS (2009))。一方、吸入経路では本物質の反復吸入ばく露試験自体は実施されていないが、SIDS (2009) による記述では、エチレングリコール類の毒性は SIDS がカテゴリー評価対象物質としたジエチレングリコール (DEG)、トリエチレングリコール (TEG)、PEG 200 のラット吸入ばく露における影響濃度が 1,000 mg/m ³ 超であることから、概して低いと考えられると推定されている。以上より、カテゴリー物質の知見も含めて、本物質は実験動物では経口、吸入のいずれの経路でも反復ばく露による毒性は低いと考えられるが、ヒトにおける高濃度反復ばく露による影響の有無に関して十分な知見がなく、データ不足のため分類できないとした。なお、旧分類では環境省リスク評価第 3 巻 (2004) にあるヒトでのばく露による症状を基に分類されたが、いずれの所見も被験者のごく一部にみられた所見で、本物質ばく露に関連した特異的な有害性を示す所見ではないと判断されたため、これらの知見は採用しなかった。
誤えん有害性	: 分類できない
ジエチレングリコール (111-46-6)	
誤えん有害性	データなし。
スルホコハク酸ジ-2-エチルヘキシルナトリウム (577-11-7)	
誤えん有害性	データなし。
エチレングリコール (107-21-1)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期（急性）：区分に該当しない
水生環境有害性 長期（慢性）：区分に該当しない

モスピラン液剤	
LC50 - 魚 [1]	> 120 mg/l (コイ、96hr)
EC50 - 甲殻類 [1]	> 120 mg/l (48hr)
ErC50 藻類	> 1000 mg/l (72hr)

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)	
LC50 - 魚 [1]	> 100 mg/l (ニシマス、96hr)
LC50 - 魚 [2]	> 100 mg/l (コイ、96hr)
EC50 - 甲殻類 [1]	49.8 mg/l (ミジンコ、48hr)
ErC50 藻類	> 98.3 mg/l (72hr)

ジエチレングリコール (111-46-6)	
LC50 - 魚 [1]	75200 mg/l

スルホコハク酸ジ-2-エチルヘキシルナトリウム (577-11-7)	
LC50 - 魚 [1]	68.2 mg/l
EC50 - 甲殻類 [1]	19 mg/l
NOEC 甲殻類 慢性	7.03 mg/l

エチレングリコール (107-21-1)	
NOEC 甲殻類 慢性	4.2 mg/l

残留性・分解性

モスピラン液剤	
残留性・分解性	データなし

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)	
BOD (ThOD の割合)	分解率 (BOD) : 1.3% (4 週間)

生体蓄積性

モスピラン液剤	
生体蓄積性	データなし

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.80 (25℃)

土壌中の移動性

モスピラン液剤	
土壌中の移動性	データなし
(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.80 (25℃)

オゾン層への有害性

- オゾン層への有害性：分類できない
- オゾン層への影響：モントリオール議定書に指定された物質を含有しない。
- その他の有害な影響：追加情報なし

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物：内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。
認可を受けた産業廃棄物処理場にて処分する。
- 汚染容器及び包装：容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。

14. 輸送上の注意

- 国際規制
- 海上規制情報：非危険物
- 航空規制情報：非危険物
- 国連番号：なし
- 正式輸送品名：なし
- 海洋汚染物質：非該当
- 国内規制
- 海上規制情報：非危険物
- 航空規制情報：非危険物
- 特別な輸送上の注意：製品は慎重に取り扱う。
飛散を避ける。
衝撃／衝突を避ける。
直射日光を避けて保管する。
水(湿った空気)との接触を避ける。
- その他の情報：補足情報なし。

15. 適用法令

国内法令

- 労働安全衛生法：名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2）
トランス-N-（6-クロロ-3-ピリジルメチル）-N'-シアノ-N-メチルアセトアミジン（別名アセタミプリド）（別表の

管理番号：N0-6146700

番号：1327)

ジェチレングリコール (別表の番号：726)

名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 2 号～第 3 号、安衛則第 30 条別表第 2)

トランス-N-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N'-シアノ-N-メチルアセトアミジン (別名アセタミプリド)

ジェチレングリコール

濃度基準値設定物質 (安衛則第 57 条の 2 第 2 項、令和 5 年 4 月 27 日告示第 177 号、令和 5 年 4 月 27 日公示第 24 号)

【改正後 令和 8 年 4 月 1 日以降】

名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第 57 条の 2 第 1 項、施行令第 18 条の 2 第 2 号～第 3 号、安衛則第 34 条の 2 別表第 2)

トランス-N-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N'-シアノ-N-メチルアセトアミジン (別名アセタミプリド) (別表の番号：1327)

ジェチレングリコール (別表の番号：726)

ナトリウム=1, 4-ビス [(2-エチルヘキシル) オキシ] -1, 4-ジオキソブタン-2-スルホナート (別表の番号：1445)

【改正後 令和 8 年 4 月 1 日以降】

名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 2 号～第 3 号、安衛則第 30 条別表第 2)

トランス-N-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N'-シアノ-N-メチルアセトアミジン (別名アセタミプリド)

ジェチレングリコール

毒物及び劇物取締法

：非該当

消防法

：第 4 類引火性液体、第三石油類水溶性液体 (法第 2 条第 7 項危険物別表第 1・第 4 類)

第三石油類水溶性液体

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)

：第 1 種指定化学物質 (法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1)

トランス-N-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N'-シアノ-N-メチルアセトアミジン (別名アセタミプリド) (管理番号：617) (2.0%)

農薬取締法

：該当

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できた資料、情報データに基づいて作成していますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上、利用してください。

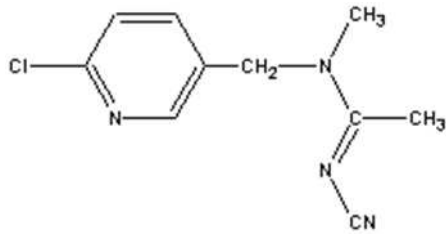
中毒したときの緊急連絡先

公益財団法人 日本中毒情報センター (事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る)

中毒 110 番 365 日 24 時間対応
一般市民専用電話 (情報料無料)
(大 阪) 072-727-2499 (つくば) 029-852-9999

医療機関専用有料電話 (1 件 2000 円)
(大 阪) 072-726-9923 (つくば) 029-851-9999

医療機関の方が一般市民専用電話を使用した場合も、
情報料 1 件につき 2,000 円を徴収します。



CAS 番号：135410-20-7

化学名：(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル) メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン